

聖書日課 『からし種』 2022.9.4-9.11

<p>9月4日 (日)  創世記 42章</p>	<p>「互いに言った。『ああ、我々は弟のことで罰を受けているのだ…』」(21節)。「罰」かどうかは、人の知るところではないが、兄たちもかつてヨセフを残酷に扱ったことを彼らなりに罪と感じ、ずっと心を重くしていたのだろう。この告白がヨセフを感動させる。人は罪を犯す者となったけれども、神がその前にくださっていた善い心はきっと失われていない。</p>
<p>5日 (月)  創世記 43章</p>	<p>「ヨセフは急いで席を外した…涙がこぼれそうになったからである。ヨセフは奥の部屋に入ると泣いた」(30節)。ヨセフの切なる想いを、彼の兄弟たちも、彼の執事も知らない。奥まった部屋に入って戸を閉め、ひとり泣くヨセフの心を、隠れたことを見ておられる神だけのご存じであろう。数千年前に描かれたこの豊かで繊細な人の心はまさに主に創造された賜物。</p>
<p>6日 (火)  創世記 44章</p>	<p>「何とぞ、この子の代わりに、この僕を御主君の奴隷としてここに残し、この子はほかの兄弟たちと一緒に帰らせてください」(33節)。冷酷だったユダが、今は自身を顧みず父とほかの兄弟のために、圧倒的な権力者の前に出て、まっすぐ相手の人格に訴える。争いの絶えなかった一家からこの誠実な叫びが出るのを、神は今まで待っておられたのかもしれない。</p>
<p>7日 (水)  創世記 45章</p>	<p>「ヨセフは兄弟たち皆に口づけし、彼らを抱いて泣いた。その後、兄弟たちはヨセフと語り合った」(15節)。ヨセフと兄弟たちが「語り合った」のは、この時が初めてだったのではないだろうか。主に夢をいただきながらも、ファラオの下でエジプトの神々に仕えていたヨセフが、実に久しぶりに「ヤコブの子」のひとりとして主なる神を讃えるひとときでもあったか。</p>

聖書日課 『からし種』 2022.9.4-9.11

<p>8日 (木)  創世記 46章</p>	<p>「その夜、幻の中で神がイスラエルに、『ヤコブ、ヤコブ』と呼びかけた。彼が、『はい』と答えると」(2節)。神と人と闘って勝った「イスラエル」にはとても見えない今のヤコブ。神が彼に語りかけるのは何年ぶりか。夫としても父親としても失敗を続けてきたヤコブをそれでも神はずっと見ておられ、時に適って再び語りかけられた。ヤコブも神の声を忘れていなかった。</p>
<p>9日 (金)  創世記 47章</p>	<p>「彼らは言った。『あなたさまはわたしどもの命の恩人です。御主君の御好意によって、わたしどもはファラオの奴隷にさせていただきます』」(25節)。栄華をきわめたファラオの王国でも、富と力を享受する者はほんの一握り、多くの国民は生きるために奴隷になった。ご自身の肉と血でわたしたちを買い取ってくださったキリストにこそ、しもべとして仕えたい。</p>
<p>10日 (土)  創世記 48章</p>	<p>「わたしはラケルを、エフラト、つまり今のベツレヘムへ向かう道のほとりに葬った」(7節)。美しかったラケルも、優しい目をしたレアも、父親ラバンと夫ヤコブの葛藤に巻き込まれた。「後継ぎ出産競争」に自分たちも召使いの女性たちも、体と心を消耗する人生であったか。「一人の人間が世に生まれ出た喜び(ヨハネ16章21節)」だけがある神の国を祈り求める。</p>
<p>11日 (日)  創世記 49章</p>	<p>「ヤコブの息子たちよ、集まって耳を傾けよ。お前たちの父イスラエルに耳を傾けよ」(2節)。母の胎内の時から兄を押し除けるアクの強さを持ち、父親としてもさまざまな失敗を重ねたヤコブ。失敗を経験した者だからこそ語れる「主の真実と慈しみ」がある。一人ひとりに教訓を語りながら主の慈しみを証しする父の言葉を、12人はどのように聞いたのだろうか。</p>